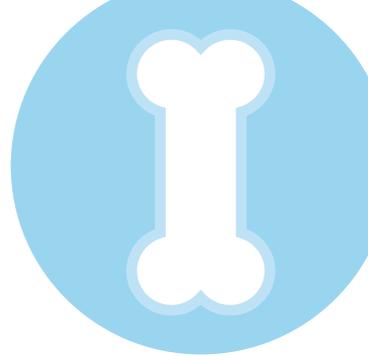


【骨粗鬆症リスク検査】(尿中デオキシピリジノリン検査)



必ずお読みください

早朝尿(朝一番の尿)を採取してください

以下の方は **検査対象外** となります

ホルモン剤治療中の方

ステロイド剤治療中の方(リウマチなど)

腎機能障害の方

抗けいれん剤を長期投与している方

がんの方

授乳中、妊娠中の方(骨の代謝が通常と異なるため)

生理中の方

身長が伸びている方

骨粗鬆症と診断されている方

ご不明な点などございましたら下記までご連絡ください(平日9:00~17:15)

TEL:0120-82-1213(ファセリア臨床検査センター)



検査ってどんなことをするの？

尿中のDPD(デオキシピリジノリン)量を測定します。

DPDは古くなった骨を溶かす破骨細胞の働きを示す骨吸収マーカーのひとつです。高すぎると破骨細胞の働きが強すぎて骨芽細胞の働き(骨形成)が追いつかず、骨がもろくなりやすい状態であることがわかります。



骨粗鬆症とは、骨の骨量(カルシウムなどの骨に含まれるミネラル成分の量)が低下してスカスカになり、骨がもろくなる状態をいいます。

骨粗鬆症は骨吸収(古い骨を溶かすこと)と骨形成(新しい骨を作ること)のバランスが崩れることによって発症します。初期の段階では特有な症状は見られませんがある程度進行すると腰背痛、円背、身長短縮などの症状が現れます。

骨粗鬆症の予防は次のとおりです。

〔食 事〕カルシウムとカルシウムの吸収を助けるビタミンDを多く含む食品をとることが大切です。

〔運 動〕骨は適切な刺激や圧力を受けるとカルシウムが蓄積されて丈夫になります。

〔日光浴〕紫外線は体内でビタミンDを合成し骨にカルシウムの沈着を促進させます。



検査って大切なんですね!

詳しい検査内容は次のとおりです。

〔基準値〕 男性 2.1~5.4nmol/mmol.Cr 女性 2.8~7.6nmol/mmol.Cr

〔判定基準〕 基準値以上を陽性とする

〔検 体〕 尿 約3mL

〔必要日数〕 約2週間 休日を含む場合、必要日数よりかかる場合があります

〔保 存〕 室温

〔郵送方法〕 郵便、受付票と検体を同封してください

※受付票には、住所、氏名、電話番号、生年月日、年齢、性別、アンケートにお答えください。

検査は株式会社日本医学臨床検査研究所が行います。

